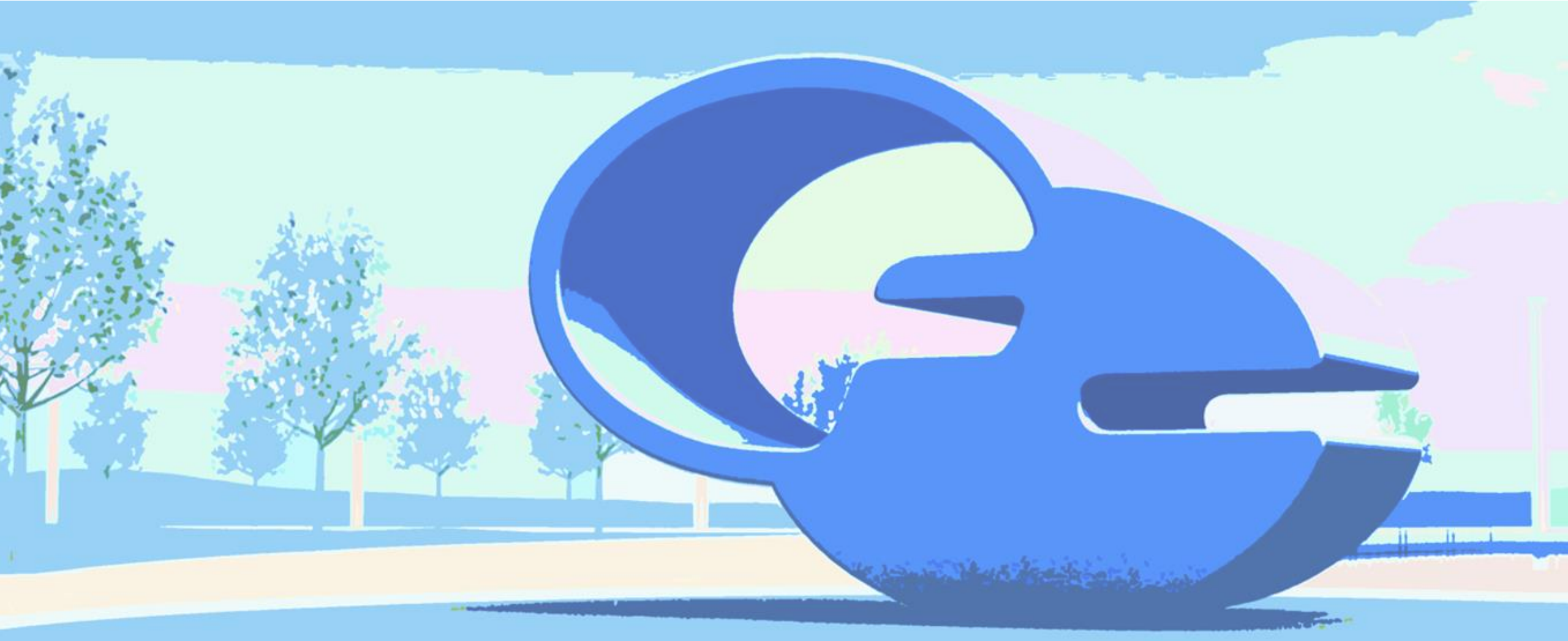




中期経営計画 (2023～2025)

飛躍・成長する3年

フジコピアン株式会社 (証券コード：7957)
2023年3月3日

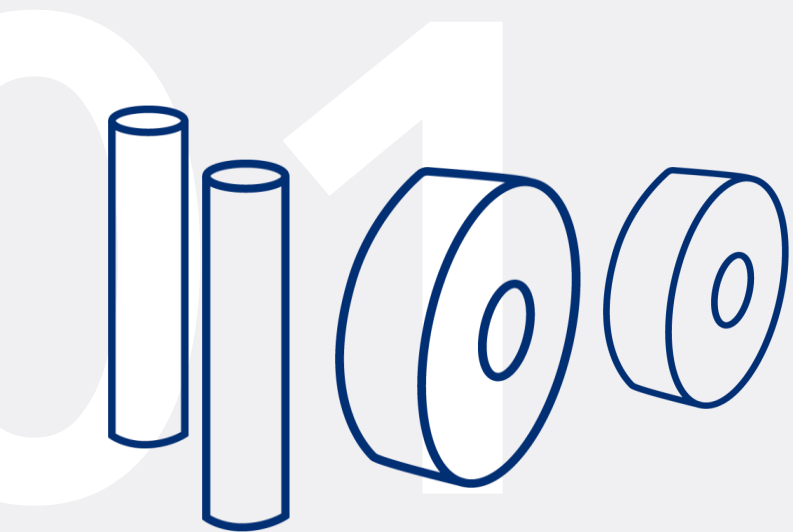
目次

第Ⅰ部 フジコピアンについて

01 企業概要	2
02 会社の強み	12

第Ⅱ部 中期経営計画

03 新たな中期経営計画	16
04 前回の中計（挑戦する3年）の振り返り	18
05 中期経営計画	25



第Ⅰ部 フジコピアンについて

01 企業概要	2
02 会社の強み	12

第Ⅱ部 中期経営計画

03 新たな中期経営計画	16
04 前回の中計（挑戦する3年）の振り返り	18
05 中期経営計画	25

会社概要（2022年12月31現在）

会社名	フジコピアン株式会社（FUJICOPIAN CO., LTD.）
設立	昭和25年（1950年）3月2日
所在地	大阪市西淀川区御幣島5丁目4番14号
資本金	47億9千1百万円（2022年度）
決算期	12月31日
拠点	● フジコピアン株式会社 本社（大阪）、東京支店、岡山工場、欧州支店（イギリス） ● 関係会社 岡山、香港、ベトナム
グループ 事業内容	● 印字記録媒体および事務用消耗品等の製造・販売 （1）サーマルトランスファーマEDIA （2）テープ類（修正テープ、テープのり） （3）機能性フィルム（FIXFILM） （4）インパクトリボン （5）その他 ● プラスチック成形品の製造・販売

経営理念

経営理念

我が社は技術力と行動力で顧客の満足を得て
国際社会に貢献し充実発展する

人間性の尊重

合理性の追求

ゆめ かたち
願望を現実に



代表取締役会長 赤城 貫太郎



代表取締役社長 光本 明

専務取締役 専務執行役員 上田 正隆

取締役 上席執行役員 赤城 耕太郎

取締役 上席執行役員 志波 博幸

取締役（常勤監査等委員） 花田 広

社外取締役（監査等委員） 植村 哲

社外取締役（監査等委員） 齊藤 昌宏

上席執行役員 金城 宜秀

執行役員 曾我部 淳

執行役員 佐々木 敏樹

執行役員 赤城 由美子

（2022年12月31現在）

拠点紹介

海外拠点

ヨーロッパ、香港、ベトナム



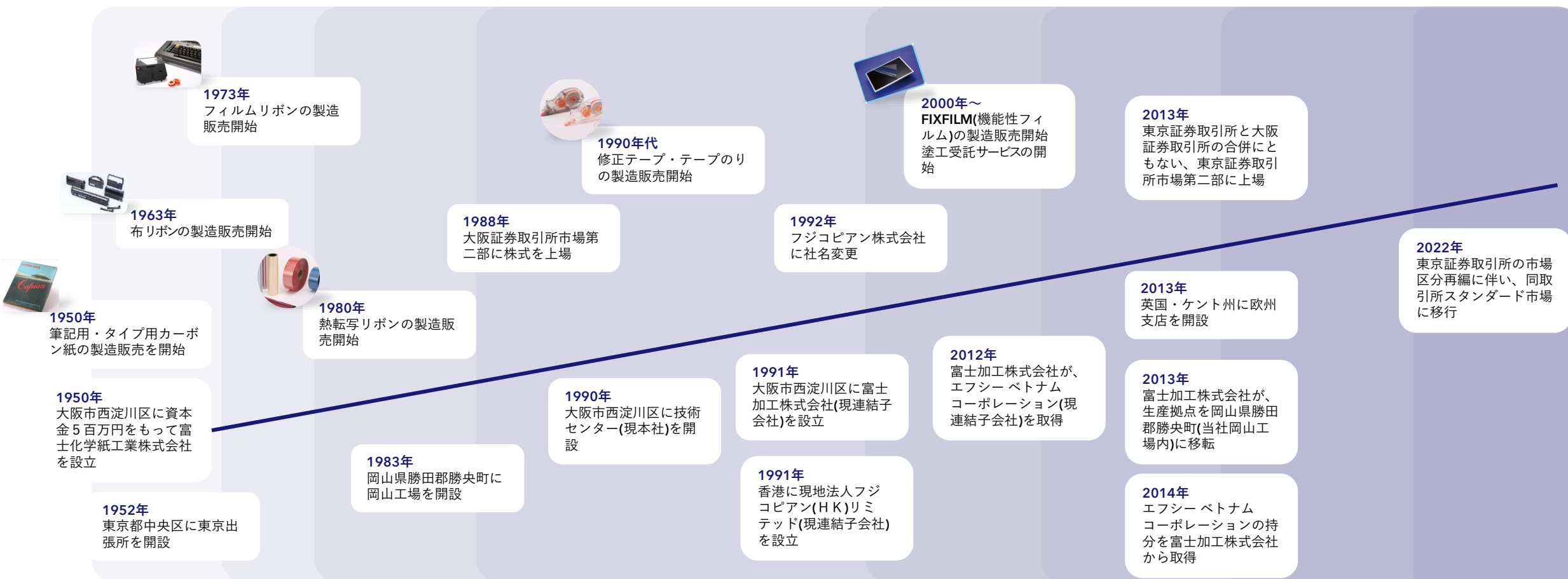
グループ会社概要

当社は、国内だけでなく、取引先である情報機器メーカーの海外生産シフトに伴って、欧州・東南アジアなどの世界各地に現地法人等の拠点を設立し、グローバルな生産・販売ネットワークを構築しております。

これらの現地法人等を通じて、当社技術が活用された様々な製品は、世界中の市場に供給されています。

- **富士加工株式会社**（岡山県勝田郡勝央町）
印字記録用消耗品の製造
- **欧州支店**（イギリス ケント州）
印字記録用消耗品の販売
- **FUJI COPIAN (H.K.) LTD.**〔フジコピアン（HK）リミテッド〕
（中国 香港）
印字記録用消耗品の販売
- **FC VIETNAM CORPORATION**〔エフシー ベトナム コーポレーション〕
（ベトナム ドンナイ省）
印字記録用消耗品の製造・販売
プラスチック成型品の製造・販売

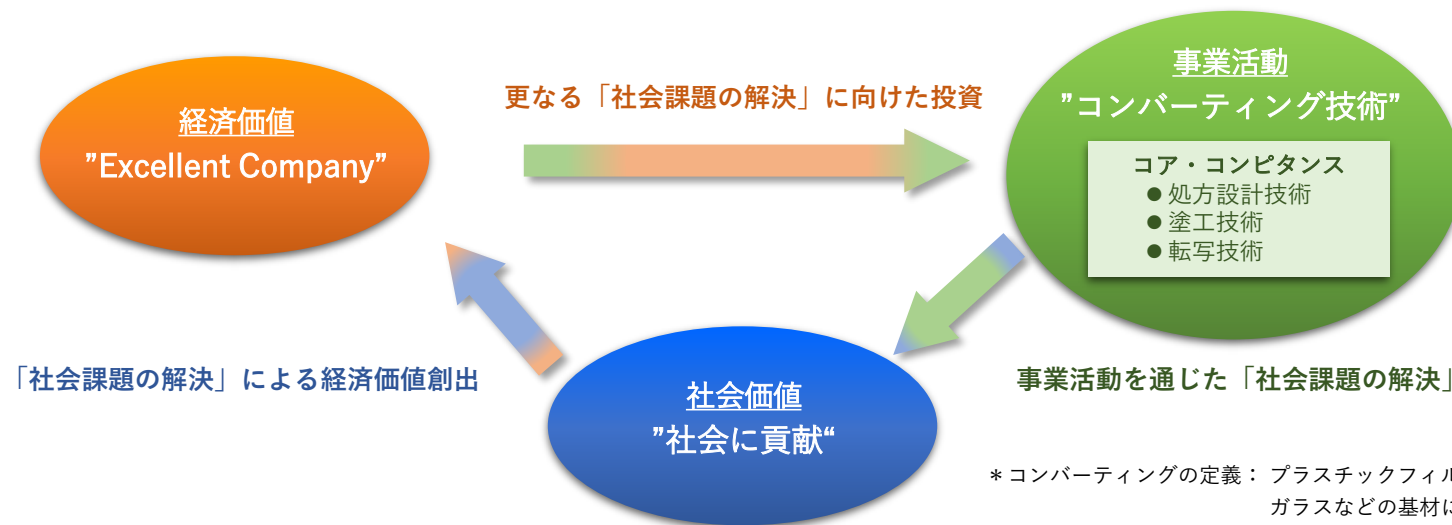
1950年 1960年 1970年 1980年 1990年 2000年 2010年 2015年 2020年



FCL VISION ～ありたい姿、志～

先端コンバーティング技術で社会に貢献する エクセレントカンパニー

企業価値創造モデルへの結び付け



* コンバーティングの定義：プラスチックフィルム・シート、金属箔、紙・板紙、不織布、繊維、銅板、ガラスなどの基材に限らずあらゆる物質に、コーティング、ラミネーティング、プリンティング等の新たなプロセスを経て表面・内面を改質し、新たな価値を生み出す行為

技術シーズ

処方設計技術

多様なニーズにタイムリーかつ的確に応え、必要な機能を有する塗工液を自社で設計・開発できる技術。

ブレンド技術

ブレンド技術＝塗工液製造技術
塗工液処方に応じた製造設備（攪拌機、分散機）を用いナノレベルの分散が可能。

定性・定量分析

分子量測定、IR分析、X線分析、など

物性測定

粘性特性、粒度分布、光学特性、色測定、引張・剥離試験、硬度、粘着性、など

測定手法開発

一般市販測定器では測定できない物性等の測定手法を開発

処方設計
ブレンド技術
分散・混合

塗工・
表面処理
設備開発

精密塗工技術

高機能な塗工液を高精度に塗工する精密塗工技術

積層塗工技術

機能分離した層の積層が可能。

分析技術
計測・解析

加工技術
スリット・組立

スリッティング技術

狭幅～広幅でのスリットが可能。
光学用にクリーンルームも完備。

ラミネート技術

クリーンルームでのラミネート可能。

カセット設計・組立技術

独自の組立工程設計、設備設計により、超小型～大型サイズカセットの組立が可能。
海外での組立拠点も保有。

固有技術をユーザーのニーズに応じて磨き上げ、発展させると同時に、新しい技術提案を行う共同開発のスタイルを基本に成長を遂げてきました。取引先様とのパートナーシップ、コラボレーションを基本に新しい事業分野の創造に取り組んでまいります

1950年代



複写用カーボン紙

1960年代



布リボン

画期的な布へのインク塗工技術の開発

1970年代



フィルムリボン

フィルムへの技術展開を図り、タイプライター用リボンとして世界中で利用される

1980年代



熱転写リボン

世界に先駆けて開発
日本語ワープロ、カラープリンター、バーコードプリンターなど

1990年代



修正テープ・テープのり

文具の分野に技術を応用
修正テープは世界のトップシェアを誇る

2000年から

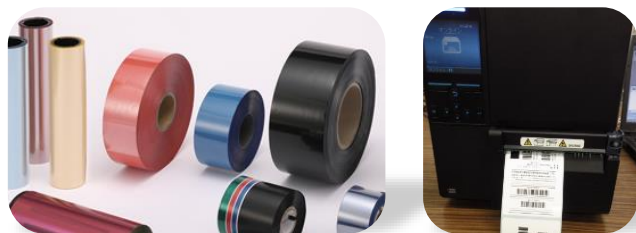


FIXFILM
(機能性フィルム)



塗工受託サービス

固有技術を未来技術へ



サーマルトランスファーマメディア（熱転写印字記録媒体） 熱転写リボン

サーマルトランスファーマメディア（熱転写印字記録媒体）は、当社が世界に先駆けて開発したノンインパクトタイプの製品です。熱転写リボン（カラー、モノクロ）等の主力製品は、プリンターの小型・軽量・低騒音化および低価格化を実現し、世界中で圧倒的な支持を獲得しています。とりわけバーコードプリンターやラベルプリンターとして好評を博しています。さらにノンインパクトタイプに対する様々な要望に対応するため、新製品開発を積極的に進めています。



テープ類 修正テープ、テープのり

フィルムの機能を進化させると、オフィスワークのスタイルを変える提案が製品となりました。修正テープはドライタイプなので、手を汚さず、すばやく作業にかかれます。



機能性フィルム **FIXFILM** 注：FIXFILMは当社における機能性フィルムの総称です。

基材の表面に非常に薄い皮膜を形成することにより、市場で求められる多種多様な機能を基材に付与する技術です。

◎ 基材への付与機能の例

接着固定機能（吸着／粘着）、光制御機能（光反射／透過／光拡散）、硬度制御機能（表面硬度制御）、電気制御機能（導電／絶縁性）、表面滑性機能（易滑／高摩擦）、その他（抗菌など）

◎ 基材の選択自由度

プラスチックフィルム（PET／PI／TPUなど）、金属箔（アルミ／銅／SUSなど）、紙 など



インパクトリボン 布リボン、フィルムリボン、リンクユニット

プリンターやタイプライターに用いられるファブリックリボンなど、世の中のプリントアウトに対するニーズにお応えできる、数々の特長ある製品を開発・製造しています。

鮮明さや耐久性に定評のある当社のインパクトリボンは高い市場占有率を獲得しています。



塗工受託

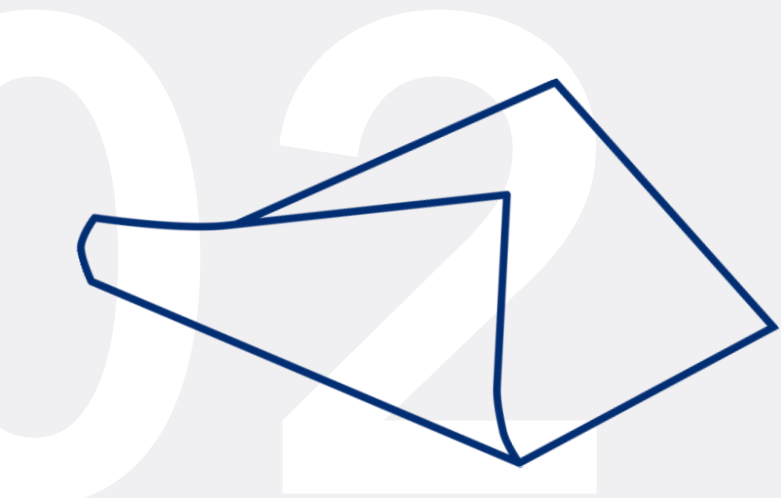
最新鋭の生産設備にて塗工液製造から塗工、ラミネート、スリット加工までの一貫したコンバーティング加工が可能です。（クリーン対応可）

単なる塗工受託にとどまらず、当社の課題解決力をフル活用し、お客様の製品を早期に立ち上げます。



プラスチック成形品

当社子会社エフシー ベトナム コーポレーションにおいて、プリンター関係、自動車関係、化粧品関係、水管関係の成形品など多様な用途のプラスチック成形品の製造・販売をおこなっております。



第Ⅰ部 フジコピアンについて

01 企業概要	2
02 会社の強み	12

第Ⅱ部 中期経営計画

03 新たな中期経営計画	16
04 前回の中計（挑戦する3年）の振り返り	18
05 中期経営計画	25

既存事業の枠組みにとどまらず、新たな事業を生み出す力を持った市場創造型の製品づくりに力を入れています。

そのために固有の技術力や組織力など経営資源の効果的・戦略的な活用に取り組んでいます

機能層設計技術



長年培ってきた薄膜形成技術を応用し、基材フィルムの表面にサブミクロンオーダーの機能層を形成することにより、摩擦制御・撥水・接着・離型性能などのさまざまな機能を発現させる表面処理技術の研究・開発を進めています。その成果としてFIXFILMを開発しました。

高精度塗工技術



高度な技術を駆使した高機能な塗工液が開発されても、フィルム上で期待された性能を発揮できなければ製品にはなりません。フジコピアンには、必要な塗工液を必要なだけ高精度に塗工する高精度塗工技術があります。塗工液にもっとも適した塗工方式、塗工条件を選択し、必要とされる機能をもつ塗膜を効率よく形成。異なった機能を持つ塗膜を何層にも重ねることにより、より高度な機能を持たせる積層塗工ができるのも、この高精度塗工技術があればこそです。

転写技術

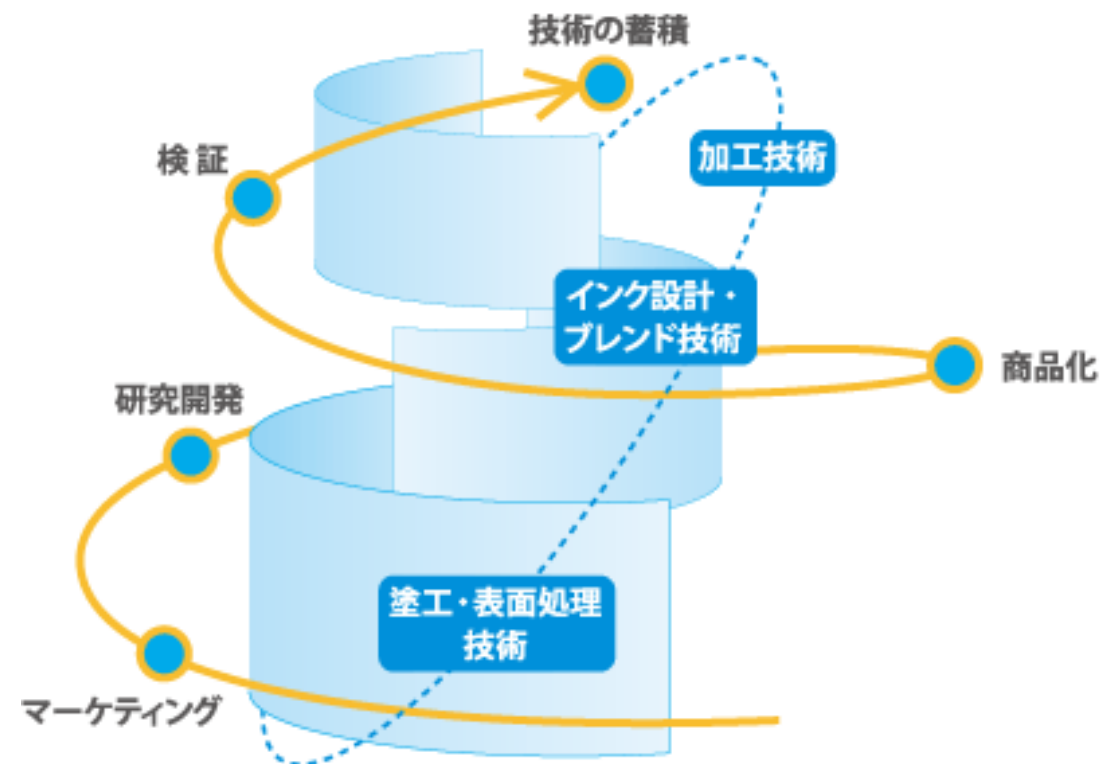


世界に先駆けて開発した熱転写技術は、プリンタメーカーとの共同開発により、高品質なデジタルカラープリントを実現する技術として確立されました。この技術を応用した中間転写技術により、CD-R、DVD-Rやカードなどへの印刷を可能にするなど、メディアを限定しない美しい印刷を実現しています。また、圧力による転写技術はインパクトリボンや修正テープ・テープのりに活用されています。

技術開発での「スパイラルアップ」による新規事業・市場の創出

当社ではお客様の要求仕様をもとに製品開発を進める際に、設計・試作・製造の各段階において、その都度お客様による検証を繰り返し、ご要望をフィードバックしていただきながら商品化を目指すという、いわば「スパイラルアップ」型の開発手法によって技術精度や製品の品質を高めてきました。こうして蓄積した独自のノウハウと固有技術をさらに深め、広げることで、新たな事業・市場の創出に取り組んでいます。

具体的には、世界に先駆けたサーマルランファーマディア（熱転写印字記録媒体）の開発をはじめ、世界の文具市場でトップシェアを誇る修正テープ、機能性フィルム（FIXFILM）といった画期的な製品開発を実現することにより市場を切り拓き、「開発志向型企业」としてのスタイルを確立してきました。



技術力を活かした一気通貫型の生産体制

当社では、4つの技術シーズ（8ページご参照）に代表される技術力を活かし、ものづくりの源流である塗工液の処方設計・製造から最終製品の仕上げ・品質検査に至るまで一気通貫型の生産を可能とする体制を整えております。

それにより、お客様が安心して当社に製品の製造をお任せいただくという信頼の絆が築かれています。

具体的には、以下のとおり、各フェーズにおいて当社の強みである技術力が活かされています。

① 処方設計・塗工液製造

お客様のニーズに応じた塗工液を自社が設計して生産できる開発力と技術力を有しています。

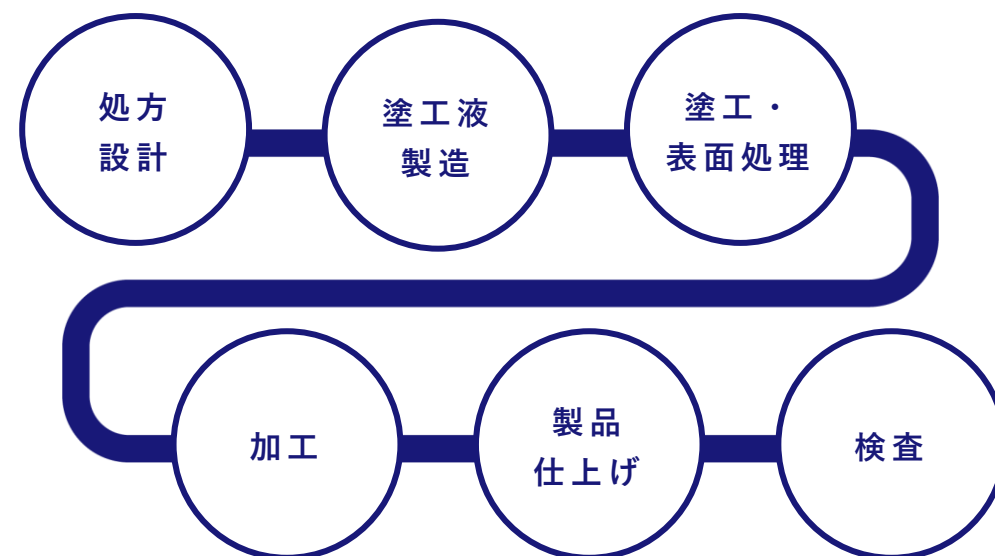
② 塗工・表面処理

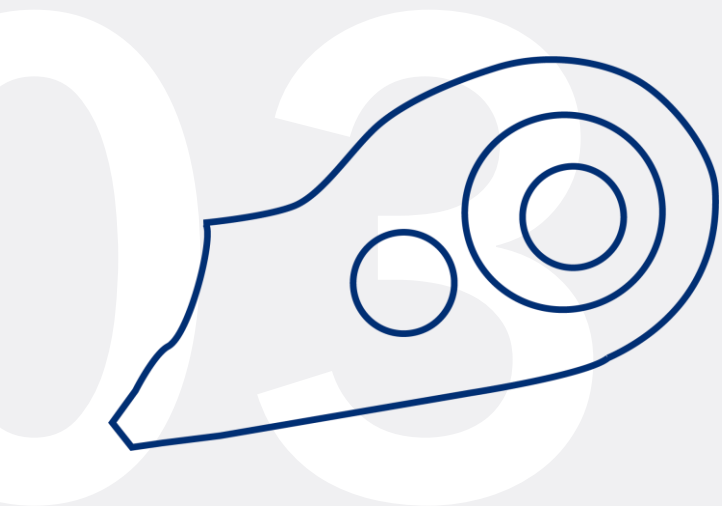
さまざまな塗工液を、基材を問わず厚膜から超薄膜まで、単層だけでなく積層でも精密に塗工できる技術力を有しています。

③ 加工

特に、スリッティング技術は、紙、フィルム、金属箔などさまざまな材質の加工ができる設備、技術が整っています。

また、インパクトリボンや修正テープの開発を通じて蓄積された高度な機構設計技術および独自の組立工程設計技術を有しています。





第Ⅰ部 フジコピアンについて

01 企業概要	2
02 会社の強み	12

第Ⅱ部 中期経営計画

03 新たな中期経営計画	16
04 前回の中計（挑戦する3年）の振り返り	18
05 中期経営計画	25

新たな中期経営計画（2023～2025）「飛躍・成長する3年」について

- 今後、ますます不連続かつ不確実に変化する厳しい経営環境となることが想定されます。
 そうしたなか、これまでの中期経営計画の取り組み、すなわち、「体幹をきたえる3年」（2017年12月期～2019年12月期）および「挑戦する3年」（2020年12月期～2022年12月期）において積み上げてきた成果を糧としつつ、それらの取り組みの過程で認識した課題の解決に向けた施策を展開することにより持続的かつ飛躍的な成長を目指すという思いを込めて、2023年12月期から新たな3ヶ年の中期経営計画を策定いたしました。

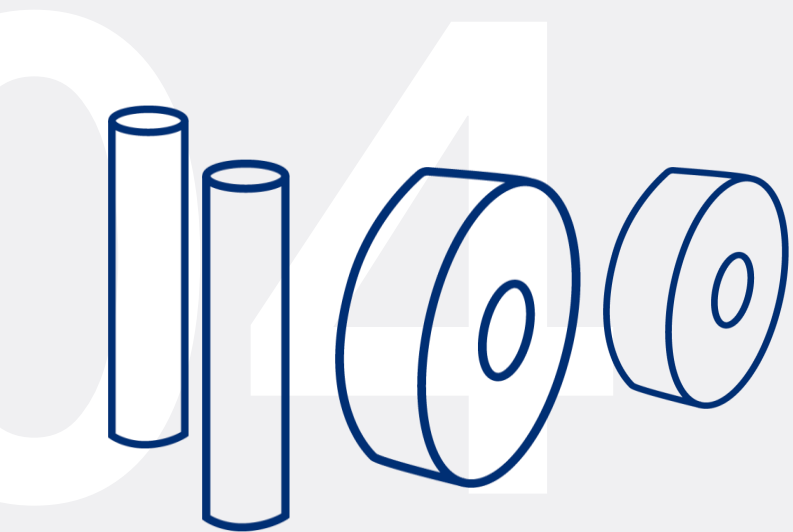
飛躍・成長する3年

中期経営方針 2023～2025

- ① 自らが経営者目線で考え、チャレンジする人財の育成
- ② 市場ニーズ、ビジネス環境の変化に迅速かつ柔軟に対応する
- ③ 成長ドライブを支える開発力・ものづくり力の強化

中期経営計画 2025年度 目標

連結売上高	11,000百万円
連結営業利益	1,050百万円
連結経常利益	1,100百万円
連結当期純利益	700百万円
自己資本利益率〔ROE〕	5.9%



第Ⅰ部 フジコピアンについて

01 企業概要	2
02 会社の強み	12

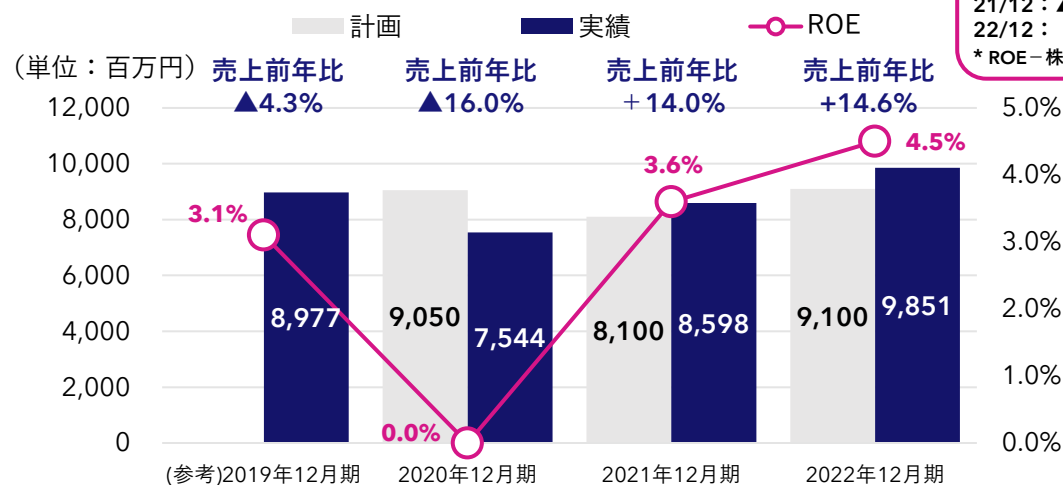
第Ⅱ部 中期経営計画

03 新たな中期経営計画	16
04 前回の中計（挑戦する3年）の振り返り	18
05 中期経営計画	25

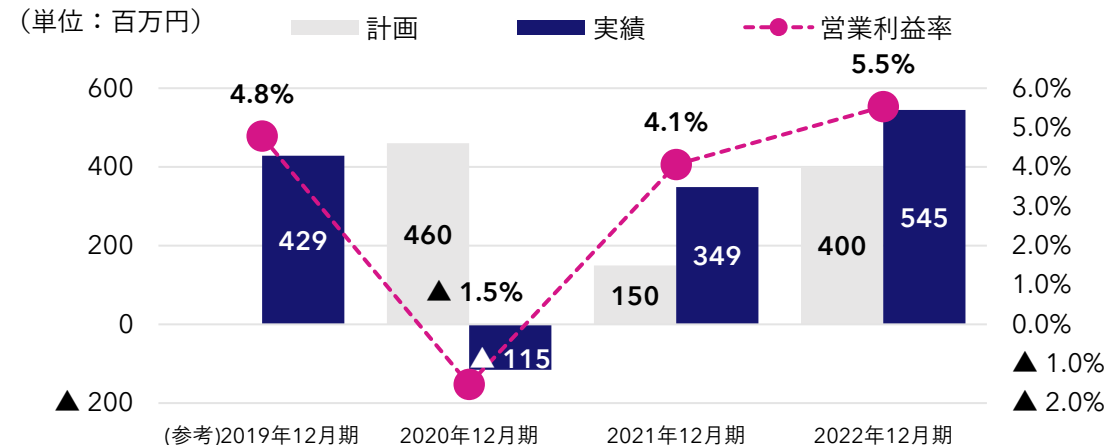
売上高/営業利益についての推移概要

- 2020年12月期は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行拡大(以下、コロナ影響)により売上高、営業利益とも大幅に落ち込み。
⇒ 数値目標の見直し（2022年12月期の当初目標：連結売上高9,700百万円、連結営業利益700百万円 → 見直し後：連結売上高9,100百万円、連結営業利益400百万円）
- 2021年12月期もコロナ影響が続く中、原油価格高止まりや物流コスト増加影響はあったものの、主にテープ類の販売が好調、サーマルトランスファーマディア（以下、TTM）においてコロナ影響を受けにくい分野への拡販を展開したこと、中期経営計画の重点課題である新規開発案件が業績に寄与し始めたことにより回復基調。
- 2022年12月期は、コロナ影響による行動制限の緩和、円安による業績面でのプラス効果があった一方で、ウクライナ情勢の長期化などの影響により、原材料価格や電力等のエネルギーコストの高騰に直面するなど非常に不確実かつ厳しい経営環境が続いた。そうした環境下、主にアジア・中国市場向けのテープ類のニーズ拡大により売上高が大幅に増加。TTMも引き続き堅調に推移したほか、新規開発案件も売上を伸ばすなど、見直し後の中期経営計画の数値目標を達成。

売上高・ROE



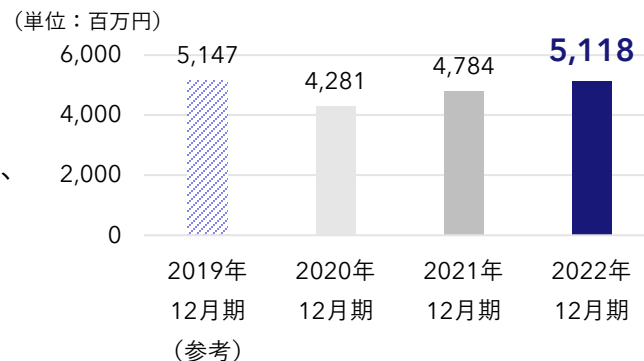
営業利益・営業利益率



品群別売上高

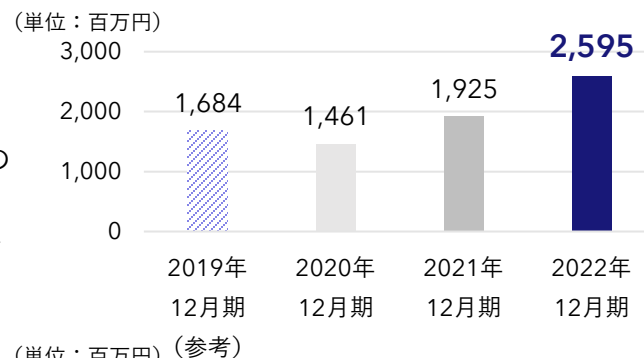
TTM

- 新型コロナウイルスの影響を受けにくい分野（軽包装関連等）に対して、主力のバーコード用リボンを中心に拡販。



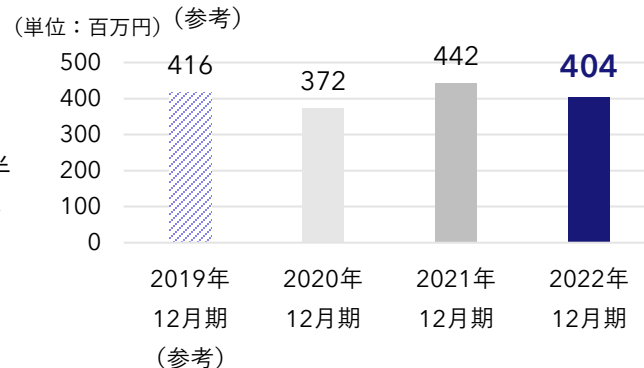
テープ類

- 主要顧客を中心に需要が早期回復。
- 特に、2022年12月期は、当社製品の品質面での優位性から、アジア・中国の修正テープ市場において需要が大幅に拡大。



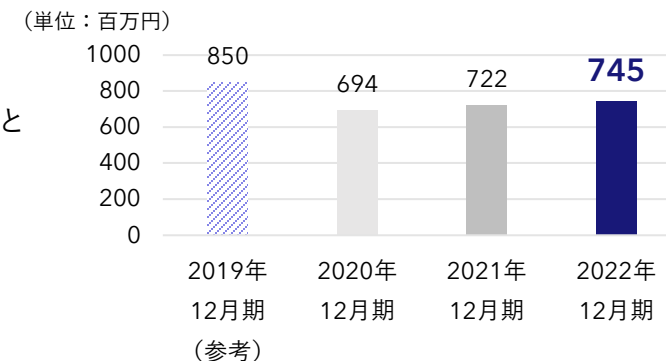
FIXFILM

- 新規開発分野の売上が徐々に寄与。
- 一方で、2022年12月期は世界的な半導体不足の影響により、電子材料分野が伸び悩み売上減少。



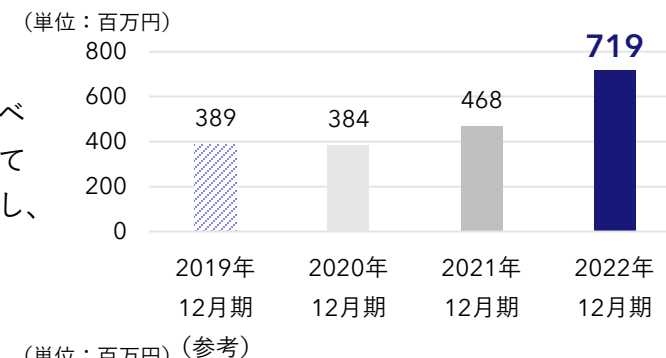
インパクトリボン

- 市場の縮小傾向が続くなか、選択と集中にもとづく営業活動を展開。

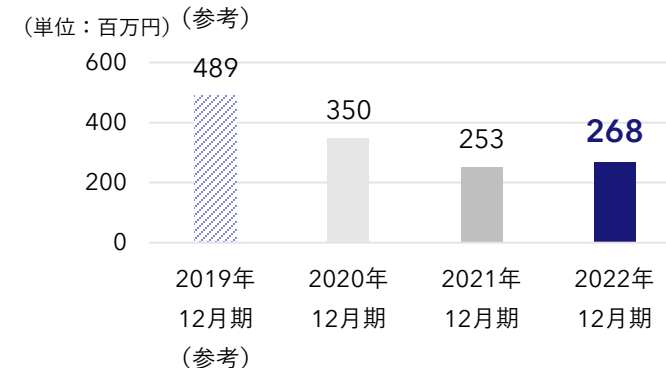


プラスチック成形

- 旺盛な需要を背景に、エフシーベトナムコーポレーションにおいて適宜設備投資による生産力を増強し、好調に推移。



塗工受託・その他



4つの重点課題について



新製品・新規事業の開発

概要

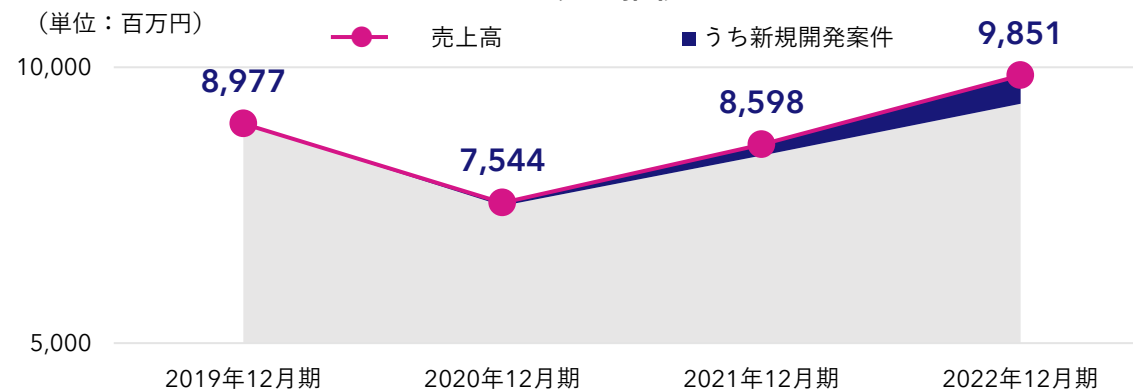
- TTM、テープ類のほか、「第3の柱」として、機能性フィルム「FIXFILM」の新製品・新用途開発の推進品群活動（*1）のスピードアップ

（*1）品群活動：製品群ごとに体制を確立し、各製品群における戦略・戦術および行動計画を策定のうえ遂行する活動。

取り組み実績

- 新規開発案件獲得の専担部門を設置
- 新規開発案件の売上高実績
2020年度：54百万円（0.7% *2）
2021年度：202百万円（2.3% *2）
2022年度：512百万円（5.2% *2）
（*2）連結売上高に対する割合
- 京都工芸繊維大学はじめ大学3校と産学連携による新技術探索（継続中）

売上推移



4つの重点課題について



ものづくり力・生産性の強化

概要

- 生産性のさらなる強化
- 生産技術革新（生産技術力の強化、新規事業に向けた生産体制の構築など）



取り組み実績

- 原材料の見直し、工程内ロス削減、非破壊検査導入などにより、コストダウン活動を実施
- 合理化の一環として、子会社エフシー ベトナム コーポレーションへの一部移管による生産地最適化の実施
- 生産技術革新への取り組み
 - ・ 設備改造により一部工程を省人化
 - ・ 生産技術力強化への取り組みとして、自社設計にて設備導入や改造を行い、スリット工程の広幅化など生産力の向上を実現

4つの重点課題について



人財育成

概要

- 人的資本への投資の拡充（採用政策の実行等）
- 投資した「人材」を「人財」に（*3）

（*3）人財＝能力や資質を発揮・活用し、価値の高い仕事をする人。
人材＝今後、さまざまな能力を開発できるポテンシャル（潜在力）を持つ人。



取り組み実績

- 次期管理職層となる年代の人財を中心に経験者採用（中途採用）を積極実施
⇒ 2020～2022年度採用実績34名
- 中核人財育成および女性活躍推進を企図した「人財育成検討会」（*4）の実施

（*4）社員が、取締役・執行役員に対し、自身のキャリア設計等に関するプレゼンテーションを行い、取締役・執行役員が個人ごとの育成方針を協議。3年間で15回80名（うち女性23名）が実施。

- チャレンジを一層評価する人事評価制度への見直し（2023年度上期開始）
- 自己啓発支援制度の拡充（実質全額会社負担）
- 女性活躍推進
 - ・ 「フジコピアン ダイバーシティポリシー」制定
 - ・ 女性管理職比率などの目標値設定
 - ・ 子の看護休暇等の要件緩和 など

4つの重点課題について



基幹系システムの 再構築による業務改革

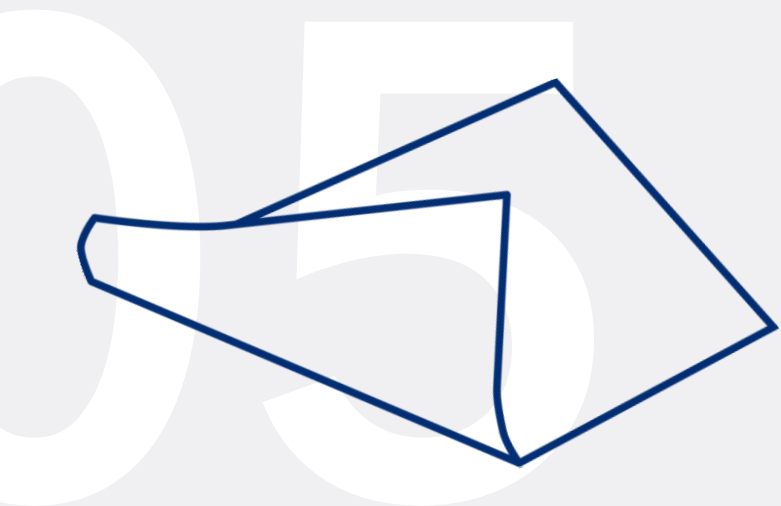
概要

- 経営意思決定を支援する機能の実装（スピード化）
- 業務およびシステムのシンプル化／基本に立ち返った効率化（標準化、平準化、可視化）



取り組み実績

- 新・基幹系システムの設計は計画どおり進捗
- 一方、社内の習熟度が十分な水準に達していないとの判断から、一部のシステムを除き、当初予定の2023年1月本稼動開始を、同年5月（ゴールデンウィーク明け）に延期



第Ⅰ部 フジコピアンについて

01 企業概要	2
02 会社の強み	12

第Ⅱ部 中期経営計画

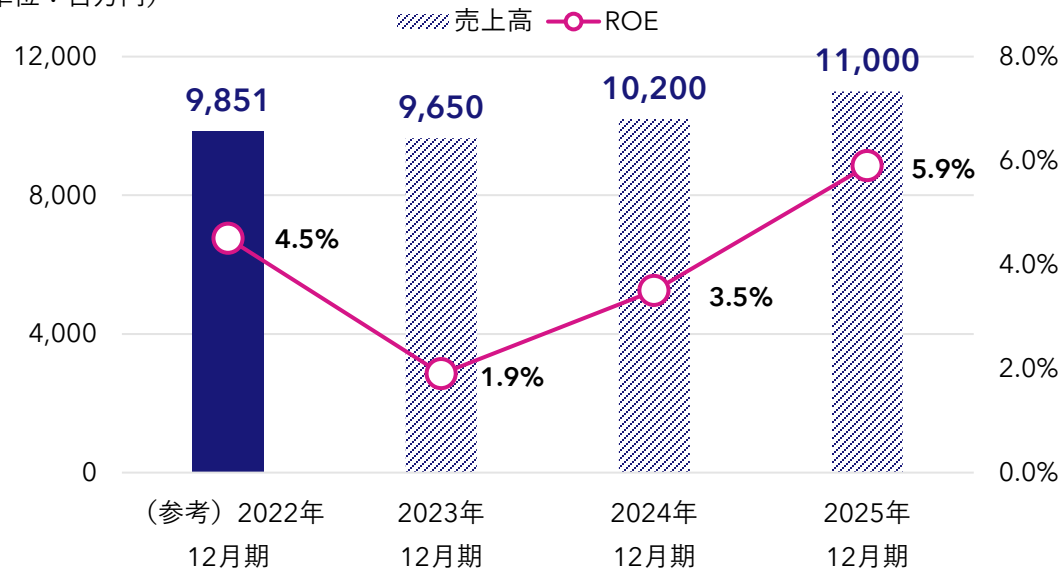
03 新たな中期経営計画	16
04 前回の中計（挑戦する3年）の振り返り	18
05 中期経営計画	25

売上高/営業利益等について

- 2023年12月期は、為替環境が円高基調にあること、原材料価格や電力等のエネルギーコストの高止まりを見込む。また、新・基幹系システム投資にともなう費用負担増加などから、2022年12月期比減収・減益の見込み。
- 次ページ以降に記載の重点課題の取り組みにより、2024年12期以降は業績回復を見込む。
- 中期経営計画の最終年度である2025年12月期の目標は、連結売上高 11,000百万円、連結営業利益 1,050百万円、連結経常利益 1,100百万円、連結当期純利益 700百万円、自己資本利益率（ROE）5.9%。

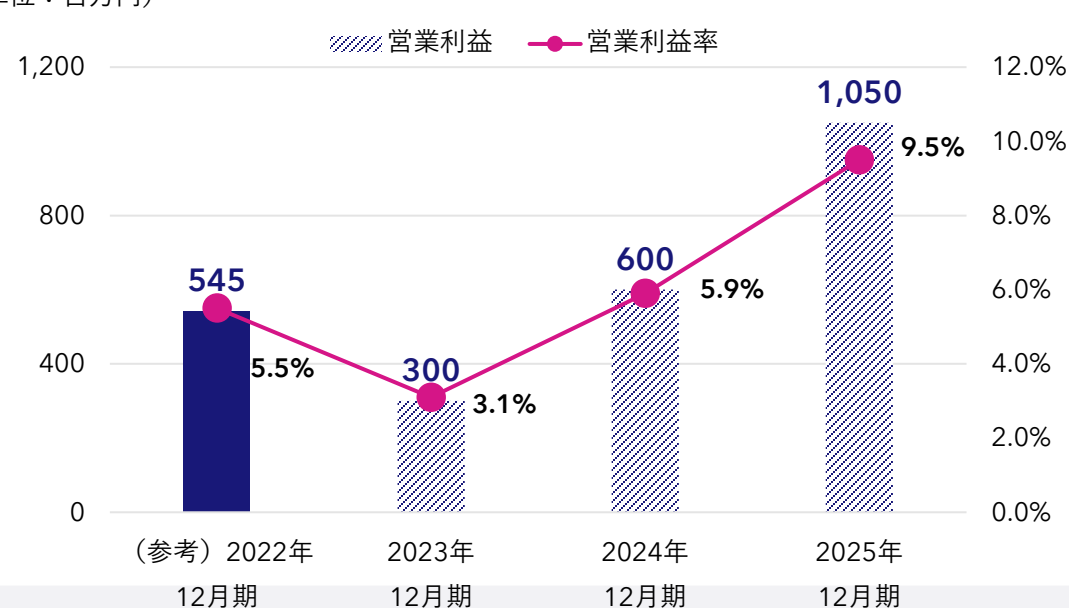
売上高・ROE

（単位：百万円）



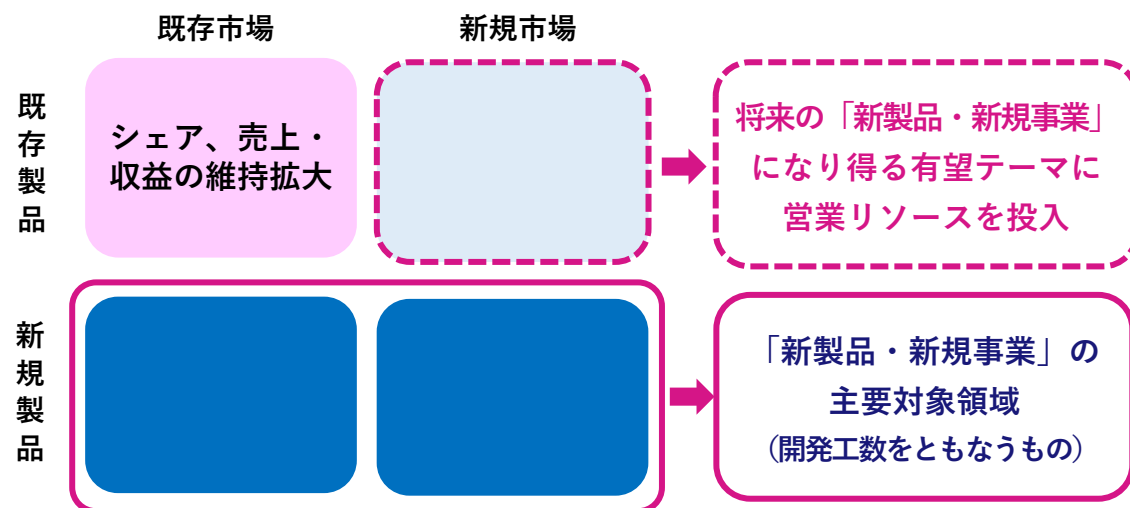
営業利益・営業利益率

（単位：百万円）



1

成長に向けた領域・テーマの明確化



- 新製品・新規事業開発のターゲットとして、TTM、FIXFILMでは、車載関連、半導体関連、軽包装関連、ラベルプリンター関連の市場など中長期的な成長や安定的な需要が見込める分野を中心とする。
テープ類では、拡大中のアジア・中国市場のニーズを取り込む。

2

開発体制の強化

- 新規分野における開発品の設計基準整備
(開発ステップの明確化)
- 技術調査能力の向上
(生産工程、材料技術を含む)
- 要素技術の拡充

新規分野におけるお客様の要求品質への対応強化

〔要素技術の拡充について〕



TTM分野

TTMの用途展開として各種マーキングに関する技術開発



テープ類分野

文具の環境対応としての技術開発



FIXFILM分野

当社技術の特長でもある接着、粘着、剥離をキーに要素技術を拡充



産学連携

京都工芸繊維大学はじめ大学3校との連携継続
(中長期的な基礎技術獲得への取り組み)

1

環境に配慮した効率的な原材料の使用

- 専任メンバーを含むプロジェクト活動による取り組み
- 自社設計等による設備導入や技術開発の実施

2

設備投資によるさらなる生産性の向上

- 長尺化や広幅化に対応できる設備投資を行い、生産性の向上を図る
- 加えて、生産量増加に対応できる安定生産体制を確保する

3

新規事業に向けた生産体制の構築

- 新規事業分野における技術調査、品質保証体制の調査 → 課題抽出・対応策検討
- 人財育成、必要な設備導入
- 運用とPDCA機能発揮

4

コストダウン活動

- 生産技術力のさらなる強化
- 購買戦略の強化（海外調達も含めた原材料コスト削減）
- 工程内ロス of のさらなる削減

1

既往人事施策のモニタリング PDCA機能発揮による高度化

- 処遇関係の見直し
- チャレンジを一層評価する新・人事評価制度（2023年度上期開始）の運用とモニタリング
- 中核人財の育成
 - ・ 経験者採用（中途採用）・新卒採用の強化
 - ・ 2022年度管理職研修に導入した「コーチング研修」の継続と効果モニタリング
 - ・ 「人財育成検討会」における育成方針の実行
- 女性活躍推進
 - ・ 女性活躍推進法における目標達成に向けた取り組み（～2026年3月）
 - ① 労働者に占める女性の割合を13%から15%に引き上げる
 - ② 管理職に占める女性の割合を4%から10%に引き上げる
 - ③ 男性労働者の子の看護休暇取得対象者に対する取得者比率を5%から30%に引き上げる
 - ・ 「人財育成検討会」における女性の育成方針の実行など

2

従業員エンゲージメントを 高めるための施策

- 従業員エンゲージメント水準のアセスメント検討
- 各部門によるストレッチアサインメントの実施
→ チャレンジを一層評価する人事評価制度との有機的つながり
- 健康経営への取り組み

3

経営課題（サステナビリティ）と しての「人的資本」への投資

- 当社に相応しいKPIの設定
- 従業員インセンティブに係るプランの検討など

【CO2排出量削減目標】

- 対象範囲：日本国内拠点（国内子会社を含む）
- 排出対象：SCOPE 1 およびSCOPE2 (*)
- 削減目標：2019年度を基準として、2030年度にCO2排出量を30%削減

(*) SCOPE 1：燃料の燃焼などによる直接排出
 SCOPE 2：電力や蒸気の使用による間接排出
 SCOPE 3：SCOPE 1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動

削減目標達成に向けた施策・検討課題

- ① 岡山工場における、LNGの優先使用（重油をできる限り利用しない）
- ② 岡山工場における、高効果設備の購入（ボイラーなど）
- ③ 全拠点における、省電力機器・照明などの導入（空調、LED照明）
- ④ 再生可能エネルギー導入
 - ・岡山工場における、太陽光発電設備の検討
 - ・岡山工場・本社における、再生可能エネルギー購入の検討など

その他の検討課題

- 海外生産子会社であるエフシー ベトナム コーポレーションにおけるSCOPE1およびSCOPE 2 の削減
 - ・ベトナム国でのカーボンニュートラルに係る外部環境を調査し、現地の事情にあった目標の設定と施策の実行
- SCOPE 3 の算定および削減
 - ・SCOPE3におけるカテゴリーごとの算定をもとに、当社として追跡するカテゴリーを決め、SCOPE3の削減に資する施策の検討・実行

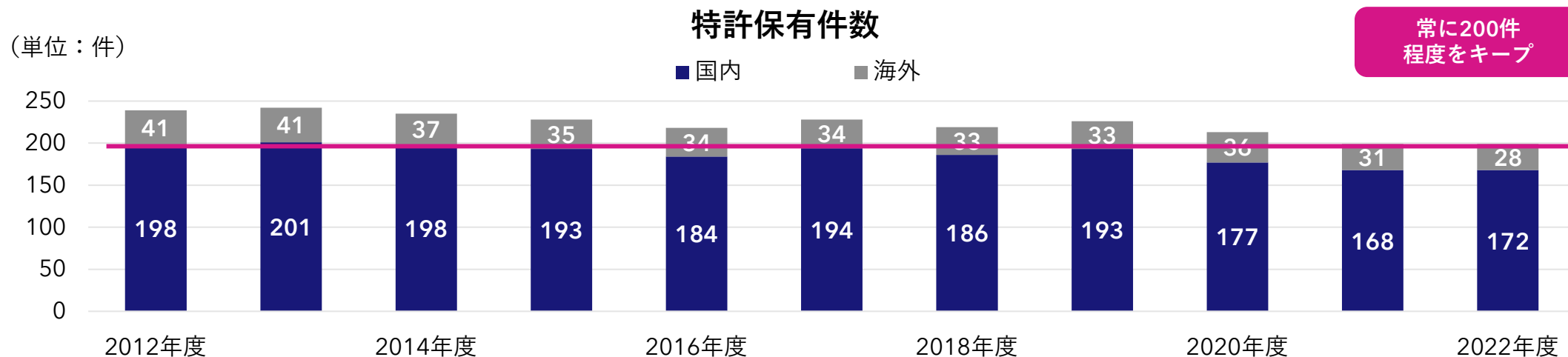
サステナビリティに関する課題のうち、以下の3点に重要性（マテリアリティ）を置き優先的に取り組み。

1. 気候変動問題への対応：30ページに記載のとおり

2. 人的資本投資およびダイバーシティ（女性活躍推進を中心に）：23ページおよび29ページに記載のとおり

3. 知的財産への投資について

- 当社は1950年の創立以来、画期的な製品開発を実現することにより市場を切り拓き、「開発志向型企业」としてのスタイルを確立してまいりました。
- 従いまして、当社にとって知的財産は何ものにも代えがたい重要な資産であります。
- 現在、原則2ヶ月に1度、関係取締役・執行役員による「特許出願審査委員会」を開催しており、新たな開発技術について特許出願の是非を議論したうえで特許を出願しております。
- その結果、この約10年間、国内外の特許保有件数は常に**200件**程度をキープしており、研究開発費はもちろんのこと、特許についても相応の出願・維持コストをかけるなど、知的財産への投資を続けております。
- 今後も、質の高い特許を数多く出願できるよう開発技術力の向上に努めてまいります。





将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている将来に関する計画、見通し、経営目標に関する内容につきましては、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると考えられる一定の前提にもとづき判断したものであり、リスクや不確定要素を含んでいます。従いまして、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約あるいは保証するものではありません。